

来年度受験する皆さんへ

— 推薦入試「基礎学力調査」に関する変更について —

新課程にともない、主体的な学びが今まで以上に重視され、自ら課題を発見し、解決するといった力を育てることが求められています。その理由の一つとして、情報化社会の急激な進展に対応できる力を獲得することが挙げられますが、そのためには文・理の枠組みにとられない幅広い知識と興味を抱くことが必要です。

本校においても、以前より全科目主義を掲げ、まんべんなく科目を履修するカリキュラムを組んでいますが、中学校までの基礎学力の獲得状況によって高校進学後の伸びが左右されることも大きいと考えています。

そのため、推薦入試における5教科の「基礎学力調査」部分に関する見直しを行い、改めることとしました。目的は先ほどお話した通りですが、変更にあたって気をつけた点は、受験生の皆さんに不安感を持たせないことがあります。そのポイントは、「基礎学力調査」という趣旨から、①せっかく試験に向けて勉強してくれた成果をきちんと結果に反映できる、②負担感を増やさない、の2点と考えました。

- ① に関しては、理科、社会の配点を10点ずつ増やして、理科・社会のウェイトを高める。それと同時に主要3教科といわれる国語と数学も5点ずつ増やしてその重みも確保する、それによって中学校で勉強した成果を一層出してもらえると考えました。
- ② については、理科・社会がそれぞれ10点増えたとはいえ、出題範囲は変わりませんから、勉強したところの成果が出せると考えれば、大きく負担が増えたとはいえませんと思います。そして、国語と数学に関しては、問題数に大きな変更を加えず、配点を変えろといった対応を行うことを考えています。

次に時間です。今までは国語(35点)と社会(25点)の60点分で50分、同じく数学(35点)と理科(25点)の60点分で50分であり、そこから比較するとそれぞれ15点増えることとなります。解くスピードへの配慮も必要ですし、昼食までの時間、その後の面接のことを考えるといくらかでも延ばしていいわけではありません。私たちは、そうしたことを総合的に検討した結果、10分の延長で十分対応できると判断しました。計20分の試験時間が延びることとなりますが、先ほど述べた問題をすべてクリアできるものと思っています。

以上の説明から今回の変更を前向きにとらえてもらえるとありがたいと思いますし、未来の世の中をよりよいものにしようとする高い志を持った人と来年の4月からともに学べることを楽しみにしています。

基礎学力調査変更点

- ・理科・社会の配点をそれぞれ10点増やし、国語と数学の配点を5点ずつ増やす。
- ・国+社、数+理の試験時間をそれぞれ10分延ばす。

【変更前】

- 1限：国語（35点）+社会（25点） 試験時間 50分
- 2限：数学（35点）+理科（25点） 試験時間 50分
- 3限：英語（45点） 試験時間 40分

昼食後に、個別面接。

【変更後】

- 1限：国語（40点）+社会（35点） 試験時間 60分
- 2限：数学（40点）+理科（35点） 試験時間 60分
- 3限：英語（45点） 試験時間 40分 ※変更なし

昼食後に、個別面接。 ※変更なし